

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町 1-1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043 (223) 3005
毎月 1日発行
平成 28 年 1 月号



平成 28 年の新春を迎えて



公益社団法人千葉県園芸協会
理事長 間 洵 誠 一

新年、明けましておめでとうございます。
皆様には、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

会員の皆様方には、日頃、本県の園芸振興に多大なる御尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

農業・農政を取り巻く環境は、生産者の高齢化や担い手不足など、依然とし厳しい状況にあり、昨年の T P P の大筋合意により、日本農業に対する新たな影響が予想されます。

しかし、このような時にこそ、千葉県農業の高い潜在能力を生かし、千葉県が日本の農業をリードしていく時であると考え、当協会としては農業者、J A グループなどの緊密に連携する「オール千葉」体制により、国内外産地に打ち勝てる力強い産地づくりに取り組むことが重要であり、その責任の大きさに身の引き締まる思いであります。

これまでの主な取組として、園芸産地強化事業では、千葉県園芸産地連携推進会議を開催し、県内の園芸関係者が一堂に会し産地連携を柱とした本県園芸の振興方針について確認したところであります。

これを受け、主要品目であるトマト、ねぎ、にんじん、さつまいもの 4 品目について品目別協議会を設置し、県統一での規格表の作成や各産地での技術交換会等を開催し、産地間連携の環境づく

りの推進に努めてきたところであり、品目によっては、新たな産地づくりの動きも見られるようになりました。

今後は新たに、だいこん、キャベツ、きゅうりの 3 品目について品目別協議会を設置し、更なる産地連携の拡大を図ってまいります。

さらに、意欲ある担い手への農地集積や集約化等を目的とした農地中間管理事業では、本年度、組織体制を強化するため、新たに県内に 5 支部を設置し、現地でのきめ細やかな対応と制度への周知の強化を図りました。そして、事業説明会の開催や地域の要請による現地での柔軟な対応にも努力を重ねた結果、本年度の貸付面積については 500ha 程度を見込んでいます。

今後も意欲ある担い手への農地集積を推進し、効率的な経営体を育成していきます。

その他、青年農業者等育成事業や 6 次産業化推進事業、野菜価格補償事業等、各種事業にも責任を持って積極的に取り組んでおり、今後も農業経営の向上に懸命に努めてまいりますので、関係者の皆様にはより一層の御支援と御協力をお願い申し上げます。

終わりに、皆様方の御健勝、御活躍をお祈り申し上げます。年頭の挨拶といたします。



ちばの野菜伝道師の活動を振り返って

ちばの野菜伝道師 高原 和江

ちばの野菜伝道師の活動を通じ、産地の方々や県産農産物の更なる魅力を感じると共に、「生産者」と「生活者」相互に情報を伝えあうことの大切さを実感しました。両者のかけ橋役として「ちばの野菜伝道師協力隊」の皆さんと共にさらに活動に励んでいきたいと思ひます。

1 はじめに

千葉県は全国屈指の農業県で、身近に生産者の皆様がいらっしゃることに安心感や農産物の鮮度の良さなども大きな魅力ですが、県民の多くはそのことを知らず、県民の成人一人当たりの野菜摂取量は全国平均レベルにとどまっています。この現状を生活者にご理解いただき、県産農産物の消費拡大につなげようと、生産者と生活者相互の情報共有を行うため、千葉県森田知事より「ちばの野菜伝道師」および「ちばの野菜伝道師協力隊」として、野菜ソムリエコミュニティちばの皆さんと共に任命を受けました。身近な存在として生活者視点で多くの方々に県産農産物の魅力や食べ方などを伝えること、生産者や産地の方々が気づいていない魅力の発掘や発信などを役割としています。

2 産地交流でお互いに知る新たな気づき

主な活動として、農産物と産地の魅力を発掘・発信する産地交流会があります。県・市町村のご担当者、JA・生産者の皆様と産地見学や意見交換等を行うのですが、この交流を通じ、産地や農産物の魅力とともに、身近にいるはずの生産者と生活者の意外に遠い距離や考え方、情報のずれなどが埋まっていき、お互いの理解が深まり距離が縮まっていくことを実感します。例えば、ねぎの長さ。生活者から「冷蔵庫の保存や持ち運びには、もっと短い方がいい」といった意見に、生産者は規格を合わせるのが当たり前で、思いも寄らぬ生活者の希望に気



産地交流会で意見交換（山武）

づき、生活者は、ねぎを手にするまでの過程や苦勞などを知ることで、理解が深まり応援しようという気持ちが一層高まります。これは一例ですが、同じようなことが多く考えられます。各地の農産物直売所や様々な行事やイベント等を通じ、生産者と生活者の距離を縮める機会づくりやそこでの気づきを活かすことの大切さを感じました。

3 県産農産物の魅力を活かした販売促進活動

産地交流会後、産地や農産物の魅力と野菜ソムリエ視点を活かし、手軽につくれるレシピづくりを行い、量販店で開催される千葉県フェアにて販売促進活動も行っています。生活者の方に、ご試食と共に、産地や農産物の魅力や食べ方の提案と販売を行ないますが、試食品は毎回ご好評いただき、野菜の売れ行きもぐんと UP。情報伝達の大切さを感じます。



量販店で産地や農産物の魅力をPR

4 おわりに

生活者であり畑から食卓までのかけ橋を使命とする野菜ソムリエでもある私たち「ちばの野菜伝道師と協力隊」は、野菜ソムリエコミュニティちばの会員で現在約 200 名おります。まだつながりきれずにいる方も多く活動は発展途上ですが、産地交流会やフェアに限らず、生産者ならびにご関係者の皆様と共に、県産農産物の消費拡大、県民の方の野菜摂取量 UP を目指し、県内各地での活動も広げていきたいと思ひます。

頑張る産地



若手後継者による「しろい梨PR委員会」の活動

印旛農業事務所 改良普及課
普及技術員 中尾 友

県内一の梨産地である白井市では「しろい梨^(注1)をもっと多くの人に知ってもらいたい」という若手生産者の思いから、自主的にPR活動を行う「しろい梨PR委員会」が平成27年5月に設立されました。大産地の将来を担う若手の積極的活動を紹介します。

注1) 地域団体商標としてH26.4.11に登録

1 「しろい梨」について

白井市の梨栽培は100年以上の歴史を持ち、栽培面積は県内一を誇ります。しかし、市外住民を始め、市民でも白井市が梨の産地だと知らない人がおり、認知度の向上が課題となっています。

2 「しろい梨PR委員会」設立のきっかけ

そんな中、印旛管内梨後継者の技術習得組織「梨友会」で知り合った白井市のメンバーは、日頃から「将来の消費拡大のためにも、しろい梨の認知度を向上させたい」という思いを持っていました。白井市も平成26年度から「市の基幹産業である梨の振興に一層力を入れていきたい」という思いから若手へ働きかけ、PR活動が現実味を帯びていきました。そこで実際にPR活動を行うために、意欲ある後継者の集まりを組織化しようというリーダー的生産者の声かけにより、平成27年5月に「しろい梨PR委員会」が設立されました。

3 「しろい梨PR委員会」の位置づけ・方針

メンバーはこれからの「しろい梨」を担う後継者で、自主的なPR活動を通じ「しろい梨」の消費拡大に貢献するとともに、後継者の活躍の場としても機能していくことを目指して

おり、現在13名の若手が活発に会に参加しています。積極的な会の活動は、市内梨農家に広く知られ始めています。



開始直後は主婦で賑わいました

4 駅前で自信の梨をPR

まずは地元住民への認知度向上を目的に、8月5日に白井駅前にて、「幸水」のPRイベントを行いました。

当日は会員がそれぞれ自信を持って生産した梨を持ち寄り、試食・販売を行いました。旬の梨を求めたお客さんが殺到し、列をなすほどの賑わいで、用意した梨はあっという間に完売しました。会員からは想像以上の売れ行きに驚くと共に自信を深めていました。

また、会場では「しろい梨」の認知度やイベントについてのアンケートを行い、消費者の意見を集めることができました。

5 産地のさらなる発展に向けて

初めての駅前PRイベントは、成功しましたが、反省点も多くありました。来年は、これを生かし、より良い駅前PRイベントを行うことに加え、県外での認知度向上を目的に、都内でのPR活動も視野に入れ活動を拡大していきます。



イベントに向けて入念な会議

果樹ニュース



ナシ萎縮病の伝染について

千葉県農林総合研究センター
病理昆虫研究室 金子 洋平

ナシ萎縮病は、春先の展葉障害等を引き起こし、本県の主要品種である「幸水」で特に問題となっています。本病が孢子で感染拡大していることや、孢子の飛散時期を明らかにしたので紹介します。

ナシ萎縮病の病原菌には *Fomitiporia torreyae* (和名：チャアナタケモドキ) と *Fomitiporia punctata* (和名未決定) があります。そこで、本県における萎縮病の原因となっている菌種を明らかにするため、県内各地において、萎縮病の罹病樹から菌を分離し、DNA 解析等の調査を行いました。

その結果、県内 14 市町の 22 樹から分離した 34 菌株のうち、28 菌株は *F. torreyae* であり (表 1)、*F. torreyae* は本県の主要ナシ生産地に広く分布し萎縮病の主原因となっていました。

表 1 千葉県内各地における *F. torreyae* の分離状況

市町名	調査樹数	分離菌株数	<i>F. torreyae</i> の数
千葉市	3	4	1
市原市	1	3	3
八千代市	1	1	1
松戸市	1	1	1
鎌ヶ谷市	1	1	1
市川市	2	4	3
四街道市	1	3	3
白井市	1	3	2
香取市	3	6	5
山武市	2	2	2
一宮町	3	3	3
いすみ市	1	1	1
館山市	1	1	1
木更津市	1	1	1
合計	22	34	28

1 病原菌 *F. torreyae* の伝染様式について

F. torreyae について、本県のナシ園内における菌の分布状況を調査したところ、異なる樹から分離された菌株は全て異なる個体 (いわゆる他人同士) の菌でした。このことから、*F. torreyae* は主に有性生殖によって感染拡大しています。つまり、子実体から飛散する孢子によって感染拡大していると考えられました。一方で、土壌伝染や剪定器具等を介した接触による伝染を示唆する結果は確認されませんでした。

2 病原菌 *F. torreyae* の孢子飛散について

F. torreyae の子実体 (写真) から担子孢子が飛散する時期を複数年に渡り調査したところ、概ね 6~11 月が飛散時期であることがわかりました (表 2)。ただし、この期間中でも乾燥状態が継続すると、孢子の飛散は中断しました。

3 防除対策について

病原菌は木材腐朽菌であるため、感染後の治療は困難で、予防が重要となります。本病は子実体から飛散した孢子によって感染すると考えられるので、子実体を見つけたら小刀等で削り出して除去しましょう。子実体は主に主幹分岐部に近い主枝で見られますが、放置された枯死枝にも見られます。したがって、枯死枝や切り株を放置しないようにしましょう。特に孢子が飛散する 6~11 月に見つけたら速やかに除去しましょう。

表 2 ナシ萎縮病菌の各子実体における担子孢子の飛散開始日と終了日

調査年	子実体名	調査期間	孢子飛散期間	
			開始 月日	終了 月日
平成20年	A	6月12日~12月26日	6月19日	11月21日
平成21年	A	1月1日~12月25日	6月27日	11月10日
	B	1月19日~12月25日	7月7日	11月10日
平成22年	A	1月9日~12月24日	6月29日	11月9日
	B	1月9日~12月24日	6月29日	11月15日
平成23年	A	1月3日~12月26日	5月31日	11月21日
	B	1月3日~12月26日	5月31日	11月21日
	C	3月9日~12月26日	5月31日	11月21日



写真 *F. torreyae* の子実体

「ちばの園芸」技術展示会の開催 ～イチゴの最新技術を学ぶ～

公益社団法人 千葉県園芸協会

県園芸協会では、県農業資材商業会や農機具メーカーと連携のもと、「技術展示会」を開催しました。今回は、イチゴ生産にテーマを絞り、県内イチゴ生産者と関係機関団体等との情報交換により、さらなる生産拡大を目指した初めての試みを紹介します。

1 はじめに

去る 10 月 30 日に、イチゴを主体とした生産技術の向上を目指して、県と県園芸協会、県農業資材商業会の共催により、長生村の同協会種苗センターで、「ちばの園芸」技術展示会を開催しました。県いちご組合連合会の生産者を始め、行政や資材メーカーなどの関係者等 250 名を超える参加があり、講演会と展示会を通じて情報を交換し、イチゴの生産技術向上に向けて理解を深めました。

2 講演会の開催

第 1 部では、3 人の講師に登壇いただき、様々な視点からイチゴ生産について、御講演をいただきました。

東京都農林総合研究センター望月龍也所長においては、「世界のイチゴ生産事情」と題し、イチゴ栽培の歴史や世界各地のイチゴ生産の現状について説明。イチゴの安定生産や生産者の所得向上のために、取り組むべきイチゴ育種の方向性について御提案いただきました。

本県農林総合研究センター 石川正美次長においては、「イチゴの現状と将来展望」と題し、①周年栽培用品種 ②病害を回避し、育苗作業が省力化できる種子繁殖型品種 ③流通での傷みが少なく輸出ができる、堅くて食味の良い品種の開発 などの紹介がありました。また、労力軽減に向け、畝を数年連続で使っても収量が落ちないデータなどが示されました。

成田市公設地方卸売市場 五十嵐昭夫場長においては、「卸売市場を活用した『輸出への取り組み』」と題し、成田空港に近い地の利を生かし、輸出手続きを簡素化することや、同市場を輸出拠点とし、イチゴなどの輸出拡大に向けた取組が発表されました。

3 生産資材等展示会の開催

第 2 部では、農業資材等関係メーカー 35 社が、イチゴの高設システムやフィルム、肥料・土壌改良資材、苗や出荷資材などを展示。また、県農林総合研究センター及び全農千葉県本部からは、栽培試験の研究成果などの紹介がありました。

参加者は班に分かれて全ての展示の説明を受けた後、興味を持ったブースの関係者らと情報交換するなど、終日まで展示会場はたくさんの人で賑わっていました。参加した生産者からは、「イチゴにテーマを絞った展示会のため、必要な情報が入手することができた。」また、出展した資材メーカーからは、「品目が限定されているため、効果的に情報発信ができ、意見交換することができた。」など、県内生産者と関係機関団体等の活発な情報交換の場となりました。

今年度は、さらに 2 月 23 日にトマトを主体とした技術展示会を計画しております。詳細については、当協会ホームページをご覧ください関係者の皆様の参加をお待ちしております。



講演会の様子



生産資材等展示会の様子

第 65 回関東東海花の展覧会 開催の御案内

関東東海花の展覧会は、関東東海地域 12 都県の切花や鉢花など約 2,000 点が集まる国内最大級の花の展覧会です。千葉県からは、約 200 点が出展予定です。皆様御来場ください。

主催：関東東海地域 1 都 11 県（千葉県を含む）
及び全国花き関連 6 団体

会期：一般公開（入場無料）
平成 28 年 2 月 12 日（金）～2 月 14 日（日）
（公開時間）2 月 12 日（金）12:00～18:00
2 月 13 日（土）10:00～18:00
2 月 14 日（日）10:00～12:30

場所：東京都豊島区東池袋 3-1
サンシャインシティ文化会館
2 階展示ホール D

内容：花き品評会、フラワーデザインコンテスト
花の装飾展示、園芸教室、展示品の即売等
問合せ先：県生産振興課園芸振興室
（電話：043-223-2871）



「房総みかん美味コンテスト」を開催

去る 11 月 20 日（金）に JA 安房丸山支店、同月 22 日（日）、23 日（月・祝）にイオンモール木更津店で、第 17 回房総みかん美味コンテストを開催し、安房地域から 87 点（温州みかん 61 点、ゆず 13 点、レモン 13 点）が出品されました。

審査の結果、特別賞上位 3 賞は下表のとおり決定しました。

今年の温州みかんは、夏場の日照時間が平年より多かったため、糖度が高く、食味は良好となりました。

会場には大勢のお客様が訪れ、房総みかんの美味しさを広く PR することができました。

第 17 回房総みかん美味コンテスト上位 3 賞入賞者

賞名	所属組合名	氏名	品目	品 種 名
千葉県知事賞	平群柑橘組合	川名 昌行	温州みかん	興津早生
千葉県農林総合研究センター長賞	千倉柑橘組合	鶴野 雅之	温州みかん	興津早生
安房農業事務所長賞	千倉柑橘組合	渡邊 二三子	温州みかん	興津早生

千葉県立農業大学校 「庭園設計と作庭講座」募集

植木生産者や造園業者、本講座に興味のある方を対象に、庭園の設計図の描き方の解説及び設計した小庭園づくりの講座を開催します。

日 時：平成 28 年 2 月 24 日（水）～26 日（金）
（午前 10 時から午後 4 時まで）

場 所：千葉県立農業大学校
講 師：（有）重森庭園設計研究室
代表 重森千青 先生

定 員：先着 30 名
（3 日間連続で受講できる方のみ）

受講料：無料
（但し、テキスト「だれにもできるやさしい造園図面の描き方」、傷害保険料等 2,300 円程度実費負担）

申込方法：講座名、氏名、住所、郵便番号、電話番号、テキスト希望の有無、所属を記入のうえ、
1 月 12 日（火）から 2 月 12 日（金）の期間に郵送、FAX 又は持参。

申 込 先：千葉県立農業大学校農業研修科
（担当 石橋）
〒283-0001 東金市家之子 1059
電話：0475-52-5140
FAX：0475-54-0630



房総みかんの美味さを試飲販売よりPRしました



外観と食味が共に優れた果実が選ばれました